



大夢のものがたり

りんご「大夢」は東日本大震災の年(2011年)に生まれた品種です。「復興に大きな夢をのせて」宮古地域のりんご農家が丹精こめて育てました。

震災の厳しさから酸味を伴いますが、復興への情熱が口の中で果汁としてあふれてきます。ぜひ、ご賞味ください。

大夢の来歴

| | |
|-------|---|
| 平成元年 | 岩手県園芸試験場(現、岩手県農業研究センター)において「ふじ」の花(めしべ)に「ゴールデンデリシャス」の花粉を交配 |
| 平成2年 | 得られた種子を播種 |
| 平成12年 | 2次選抜を経て、交配番号「H10133」から「IA-60」となる |
| 平成13年 | 3次選抜を経て、系統番号「IA-60」から系統名「岩手5号」となる。 |
| 平成14年 | 矢巾、江刺、花泉、宮古、二戸の県内5ヶ所で高接ぎによる現地適応性試験開始 |
| 平成18年 | 宮古市で苗木による現地適応性試験開始 |
| 平成23年 | 「岩手5号」を「大夢」と命名 12月に品種登録申請 |
| 平成25年 | 品種登録 |

宮古地域は、三陸海岸に面した岩手県東部のほぼ中央に位置し、宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村の4市町村からなります。



問い合わせ先
岩手県宮古農業改良普及センター
〒027-0072 岩手県宮古市五月町1-20
TEL 0193-64-2220

このリーフレットは、沿岸広域振興局の地域経営推進費を活用して作成しました。



宮古地域復興りんご
おおゆめ **大夢**

復興に大きな夢をのせて



岩手県オリジナル品種「大夢（おおゆめ）」は、平成23年の東日本大震災の年に命名されました。その名前には、「復興に大きな夢をのせて」という被災地への思いが込められており、宮古地域でいち早く栽培が始まりました。

「大夢」の収穫期は、11月上旬。「ふじ」よりやや早い時期の収穫となります。「やませ」が入る宮古地域の厳しい環境の中でも「大夢」は大きく育ちます。

味は、甘酸適和（甘味と酸味のバランスが絶妙）で濃厚、蜜も入ります。果肉は、シャリシャリとした食感があり、中でも果汁の多さが特徴で、食べると口の中いっぱい果汁があふれます。

「大夢」は、苗木を植えて大きく育ててから収穫するため、急に生産量を増やすことができません。現在、苗木の植え付けを進めていますが、しばらくは収穫できる数が少ないため、限定販売となります。



平成26年度には、宮古地域で「大夢」を栽培する農家を中心に宮古地域大夢栽培研究会を設立しました。

みなさまに「宮古地域復興りんご『大夢』」を知っていただき、「おいしいりんご『大夢』を食べるなら宮古!」と思っていただけるよう、会員一同、日々、栽培技術に関する研究活動やPR活動に取り組んでいます。